

平成27年度埼玉高速鉄道(株)経営懇話会の概要

- 1 日 時 平成27年12月1日(火) 13:00~14:50
- 2 場 所 埼玉教育会館104会議室
- 3 概 要 (○質疑:委員 ■回答:県・川口市・さいたま市・SR)

【議事1】埼玉高速鉄道(株)の経営状況について

会社から平成26年度決算、平成27年度上半期の経営状況を説明した。

- 決算の資産額が事業再生計画より増えているが、今後の減価償却費に影響は生じるのか。
- 資産評価方法が会計基準とADR基準では異なるため資産額が増えている。ただし、資産の多くは土地などの非償却資産であるため減価償却費はむしろ減少する。
- 決算の負債合計627億の内訳を教えてください。
- 鉄道運輸機構が473億円、金融機関が27億円、県が金融機関から譲渡された債権が63億円、県・川口市・さいたま市が42億、その他を合わせて627億である。
- 平成27年度上半期の返済額はいくらか。
- 借入金を約1億円、鉄道運輸機構への未払金を約5億円、合わせて6億円ほど返済した。
- 9月の大雨で埼玉東部地域が被害に遭ったが、鉄道への被害はあったのか。
- 東川口駅と南鳩ヶ谷駅は道路と地下鉄入口の高さが近く、浸水の危険があったため土のうを積んで対応した。警戒態勢をとっていたが被害はなかった。

【議事2】需要拡大に向けた方策について

県、川口市、さいたま市から沿線の開発状況、会社の経営安定化に向けた取組を説明した。

- ③岩槻南部新和西地区と④大門上・下野田地区の使用収益開始率が、25年度と比較して10~20%アップしているが今後もこのような速度で進んでいくのか。
- ③岩槻南部新和西地区は、清算期間を考慮して平成29年までの事業完了を目標に進めており、使用収益についても同様のペースで上がっていくものと考えます。
- ①浦和東部第一地区は仮換地指定率100%であるのに、使用収益開始率が12.1%と低い理由を説明していただきたい。
- もとは原野に近いような地区に新たな道路や公共施設の整備を進めており、土地の造成がやっと完了した状況である。仮換地は進んでいるが、使用収益は低い数字となっている。
- 浦和美園駅西口の駅前一等地に、どうして建物が建たないのか。
- 最終的には地権者の意向となる。一等地といってもすぐに売れるというわけではない。私たちが勉強会を通じて地権者に促しているが、すぐには効果が出ない。
- 市が間に入ってマッチングできるような仕組みを早期に作った方がよい。
- 川口市の⑨石神西立野地区と⑩安行藤八地区の使用収益開始率が伸びないのはなぜか。
- 他にも開発を進めている地区があり、区画整理の進捗と実際に住宅が建つ時期にはズレがある。路線バスや公共下水道の整備状況などの条件もあって他の地域に流れている。
- 戸塚安行駅は駐車場が少なくパーク&ライドができない。市が土地を借りて提供するようなアイデアはないのか。
- 駅周辺はある程度開発が進んでおり、パーク&ライドの候補地となるような土地は近くにないので難しい。
- 若い一次取得層の方が新居を構えるときは、値段がリーズナブルな地域に住み、車で駅まで行くことが考えられる。他の路線にはない強みを発揮できるよう考えていただきたい。
- 定住人口増加のために、さいたま市、川口市で一層の御努力をお願いしたい。

【議事3】その他

県から埼玉高速鉄道経営自立化指針を説明した。

- 会社の取組の中に『中期経営計画を策定し、』とあるが、現在作成中なのか。
- 当分の間は、最新の計画である事業再生計画を邁進する。いずれは中期経営計画の策定は可能であるが、計画の前提となる沿線開発の進捗と沿線人口予測が必要である。

(以上)